経済学部・学府の対面／ハイフレックス授業における安全対策（学生、TA、教職員共通）

2022年12月7日

九州大学
KYUSHU UNIVERSITY

1. リスク管理の考え方

ウィズコロナ型の授業運営を基本方針とします。そのため、起こり得るリスク水準を想定し、受容不能なリスクの回避を目指します。

リスク水準	方針
1. 学生ないし教員に軽症者／無症状者が発生	受容（できる限り低減）
2. 感染クラスターが発生（軽症、重症問わず）	回避
3. 学生ないし教職員およびその家族*に重症者が発生	回避

*授業での感染が原因となって学生・教職員の家族が重症化するケース

上記を踏まえ、対面／ハイフレックス授業では下記の措置を講じます。

- 対面受講者の人数は教室の収容定員の2/3以下とする。
- 新型コロナウイルス感染の予防措置を十分に取る。（ただし、感染自体は発生し得る）
- 感染発生後に感染を広げないための対応を強化する。
- 本人や家族に重症化リスクがある学生はオンラインでの受講を推奨する。
- 感染者、濃厚接触者、および感染の疑いがある学生は、対面授業に参加しない。

1. リスク管理の考え方

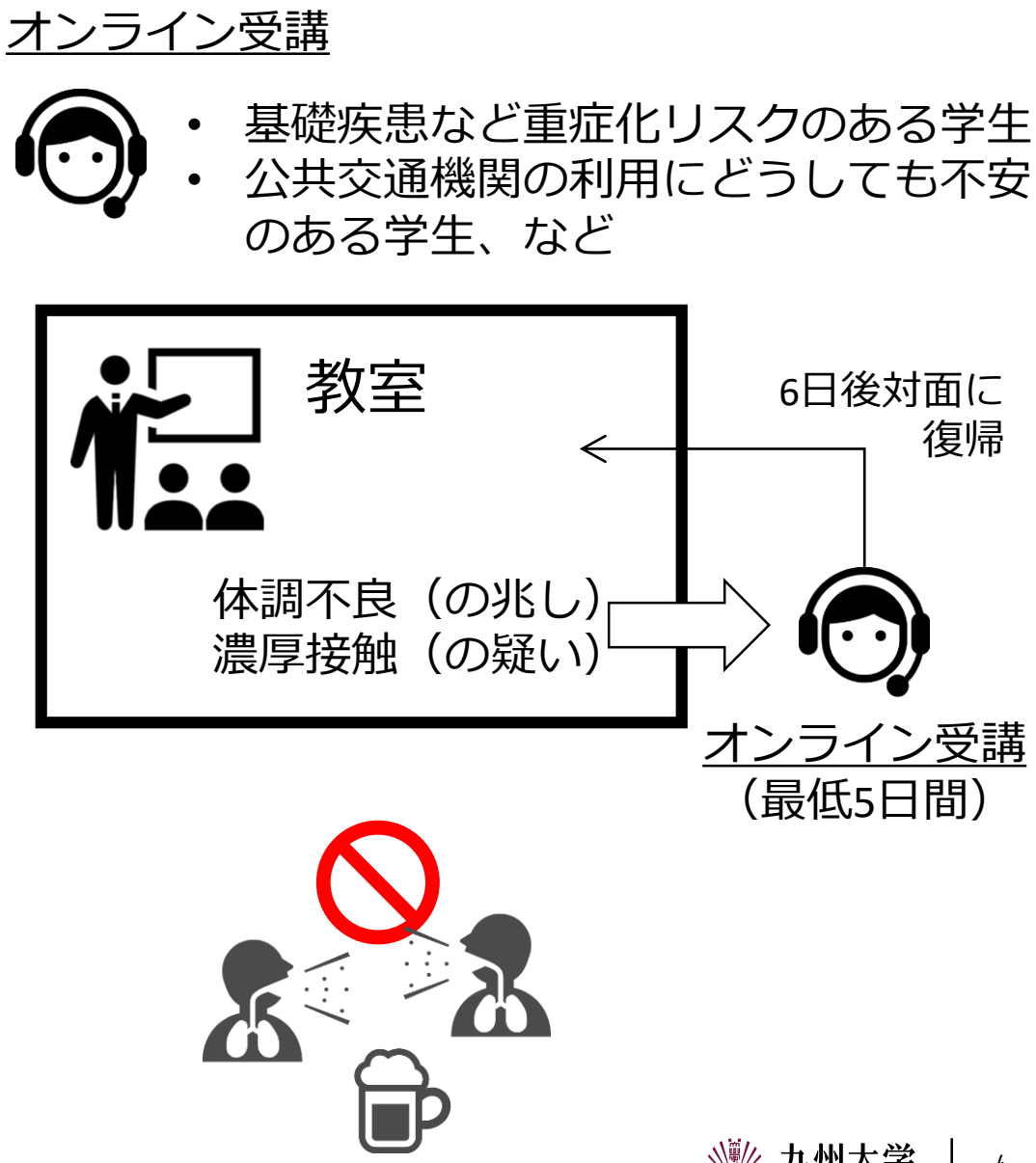
対面／ハイフレックス授業安全策

段階	安全策	学生	教員	学務課	頁
予防対策	(1) リスクを教室に持ち込まない	• **体調不良、濃厚接触の疑い →5日間オンライン受講** • 重症化リスクがある学生 →オンライン受講を推奨 • 会食等の講義外での行動：九大行動指針を遵守	• **体調不良、濃厚接触の疑い →5日間オンライン授業** • 重症化リスクがある教員 →オンライン授業を推奨 • 会食等の講義外での行動：九大行動指針を遵守		4
	(2) 教室の中でリスクを広げない	• マスク着用、手指消毒など • 静かな会話、至近距離での会話の回避	• 学生間距離の確保 • 換気の徹底		5
感染者発生時の対応	(1) 感染確認時の速やかな報告	• 速やかに学務課へ連絡	• 速やかに学務課へ連絡	• 担当教員と情報共有	6
	(2) **直近2週間で30名**以上の感染者 →全面オンライン授業へ移行	• 学務課から連絡 • **全科目を2週間全面オンライン化** • 3週目から対面／ハイフレックス授業を再開	• 学務課から連絡 • **全科目を2週間全面オンライン化** • 3週目から対面／ハイフレックス授業を再開	• 研究院長と対策を協議 • 学生、教員へ連絡	7-8

2. 予防対策（学生、教員、TA共通）

(1) 教室にリスクを持ち込まない

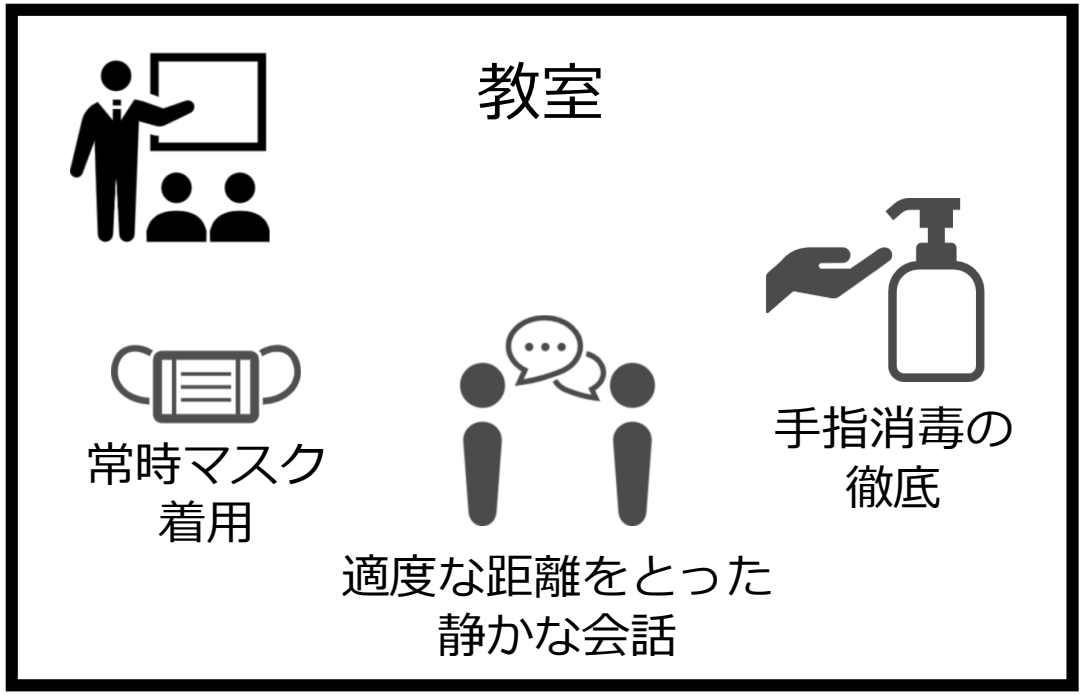
- **体調不良（の兆候）や濃厚接触（の疑い）のある場合、他者の感染を防ぐために、担当教員に連絡のうえ、オンラインで受講してください。**
  - ➢ 対面受講は、体調が回復するまで十分待ってから。
  - ➢ 濃厚接触の場合は、最終接触日を0日目とし、対面受講は6日目から（5日間待機）。
- 基礎疾患があるなど、本人のみならず家族も重症化リスクがある場合にも、オンライン受講を推奨します。
- 会食等の講義外での行動については、九州大学の行動指針を遵守してください。
  https://www.kyushu-u.ac.jp/ja/crisismanagement/riskmanagement/coronavirus/

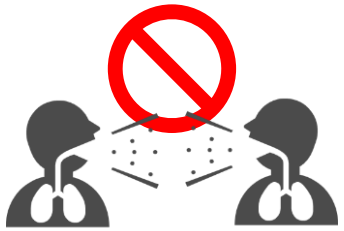


2. 予防対策（学生、教員、TA共通）

(2) 教室でリスクを広げない

- マスクの常時着用（不織布マスク推奨）、手指の消毒など基礎的な感染対策の徹底。
- 教室内でのディスカッションやグループワークは感染拡大のリスクを伴いますが、ゼミや演習科目では必須の要素（醍醐味）でもあります。
- そこで、感染を防ぐため、学生間で適度な距離を保って静かな会話を心掛けてください。





3. 感染者発生時の対応（学生、教員、TA、職員共通）

(1) 感染確認時の速やかな報告

- ウィルスが変異を続ける中、いつでも誰でも新型コロナに感染する可能性があります。
- 自身の感染が確認されたら、**経済学部HPに掲載している右記の専用フォーム**から、速やかに学務課に連絡してください（電話等も可）。
- 感染後の療養期間は、地元自治体の方針に従ってください。

➢福岡市の方針については下記を参照。
https://www.city.fukuoka.lg.jp/hofuku/coronataisaku/health/corona-ippanmuke.html

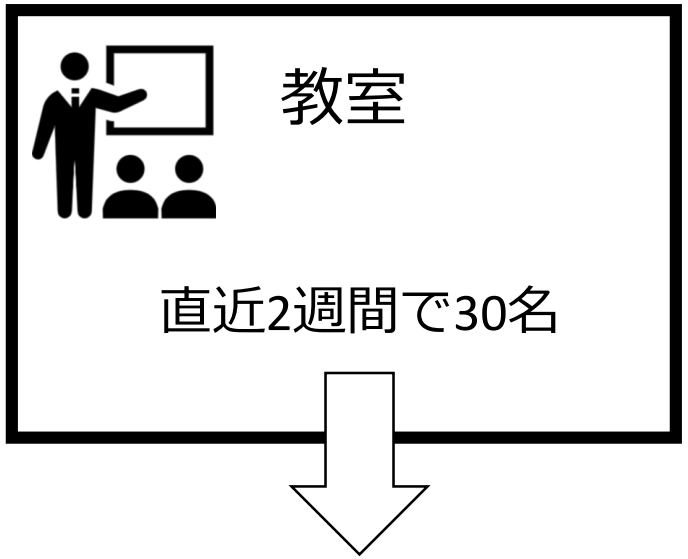
https://forms.office.com/r/Gr18ajDnAC

3. 感染者発生時の対応（学生、教員、TA共通）

(2) **直近の2週間で30名以上**の感染者が出た場合は、全科目を2週間、全面オンライン化

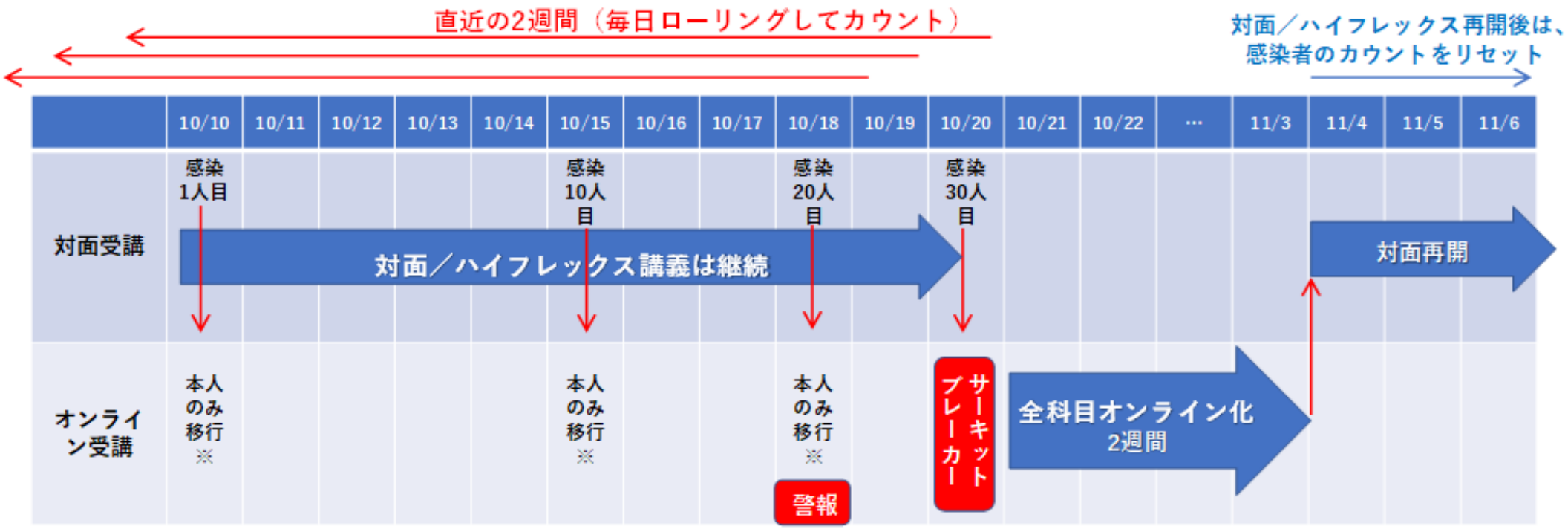
- 感染が確認された学生は、対面参加停止。
  - ➢ 対面授業への復帰は、療養期間が明けてから。
- 教員が感染・濃厚接触した場合は、当該授業をオンライン化。
  - ➢ その間、他の授業は対面／ハイフレックス継続。
  - ➢ 当該教員の療養期間の解除後、対面／ハイフレックス授業再開。
- **直近2週間の累計感染者**が**30名に達した場合**、サーキットブレーカーを発動し、翌日から全科目を**全面オンライン化**。

→次スライド参照。



2週間、全科目をオンライン化
3週目から対面／ハイフレックス再開

3. 感染者発生時の対応（学生、教員、TA共通）



※感染後は、一定の療養期間を置いて対面授業に復帰。
　療養期間については、地元行政の指針に従ってください。

- □ 累積感染者数が20名に達した時点で警報を発令し、学生ポータル等で周知します。
- □ 累積感染者数が30名に達しない場合でも、授業等での感染クラスターの発生が確認されれば、全面オンラインに移行します。

4. 最後に

対面／ハイフレックス授業を安全に継続するため、
皆さんのご協力をお願いします。

- 基本的な感染対策の徹底。
- 体調不良時や濃厚接触時は、他者への感染を防ぐために、担当教員に連絡のうえ、迷わずオンライン受講。あなたの学ぶ権利は保証します。
- 感染時は、経済学部HPに掲載している専用フォームから速やかに学務課に連絡。